

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

11月28日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 11/30(木) 8:00～、12:45～、16:00～

12/2(土)、12/3(日) 17:00～

テーマ 「ワクワク百合学院」
(百合学院高等学校生徒会)

市長 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。
どうぞ！

<3人> みなさん、こんにちは！

<大谷> 百合学院高等学校生徒会役員の大谷です。

<越野> 同じく生徒会役員の越野と

<小野> 小野です。

<大谷> 本日は、百合学院高等学校の様々な取り組みを私たち3人がインタビュー形式でお伝える、題して「ワクワク百合学院」をお送りします。どうぞよろしく願いいたします。

<越野> まずはじめに百合学院の簡単な紹介をしたいと思います。百合学院高校は、尼崎市で唯一のカトリックの女子校で、同じ敷地内に幼稚園から高校まであり、今年で創立62周年を迎えます。

<小野> 百合学院は学校名に「百合」と入っているからか、少し近寄りがたいイメージを持たれることもありますが、学年を問わず先輩後輩の仲が良く、アットホームで家族みたいな学校です。

<大谷> 最近では、強化クラブとして関西で唯一の軟式女子野球部や、今年度近畿大会に出場したバスケットボール部、全国大会常連のチアダンス部などが活躍しています。

<越野> 文化部では、弦楽合奏やハンドベル演奏を行うアンサンブル部、カトリック学校ならではのインターアクト部など様々なクラブが活躍しています。今日はたくさんある部活の中でも、インターアクト部にスポットをあてて紹介したいと思います。

<小野> ここからはインターアクト部の浅井さんに、インターアクト部の活動についてインタビューしていきたいと思います。浅井さんよろしくお願いします。

<浅井> みなさんこんにちは、インターアクト部の浅井です。よろしくお願いします。

<大谷> 早速ですが、インターアクト部と聞いてピンとこない方も多いと思いますので、部の紹介をお願いします。

<浅井> インターアクト部とは、ロータリークラブ提唱の中高生の社会活動団体です。兵庫県には26のインターアクトクラブがあり、他校との交流も盛んです。ボランティア活動を中心に活動していて、百合学院では高校生のみ入部することができ、他のクラブに入っている人でも入部できます。部員は現在93名、高校生の約4割が入部している最も人気のあるクラブです。

<越野> インターアクト部のモットーを教えてください。

<浅井> ボランティアというと「まじめ」というイメージがありますが、私たちは「Enjoy ACT」をモットーに楽しく活動しています。

<小野> 具体的には、どのような活動をしているのですか？

<浅井> 尼崎市内のイベントのお手伝いや、釜ヶ崎での炊き出し、あしなが学生街頭募金活動、老人ホームや幼稚園でのボランティア、子ども食堂のお手伝いなどです。

<大谷> 本当にいろんな活動をしているんですね。浅井さんが活動する中で、心に残っている活動があれば教えてください。

<浅井> 特に印象に残っているのは、尼崎市のイベント「みんなのサマーセミナー」のスタッフをしたことです。「みんなのサマーセミナー」は、町の人が先生になり、学校の教室を使って実際に授業をする、2日間のイベントです。この番組を聞いている人の中にも、参加された方がいるのではないのでしょうか。今年は350の授業が開講されました。先生は、赤ちゃんからNPOの方、尼崎の稲村市長さんまで様々です。私はスタッフとして活動しましたが、実際に授業にも参加しました。印象に残っているのは「昆布利きの授業」で、3メートルもある切る前の昆布を触ってみたり、全国のだしを味わったり、こんなに五感を使う授業はサマセミならではだと思いました。このイベントを通してたくさんの方々と出会えただけでなく、尼崎市の職員の方や町おこしを企画している方などとも親しくなり、他のイベントのお手伝いにも呼ばれるようになりました。いろんなことが学べて、人とのつながりが広がる、このイベントは私にとってなくてはならないものだと思っています。

<越野> 部員だけでなく、百合学院みんなに馴染みがある活動といえば「お米の一握り運動」や「イザ・カエルキャラバン」などでしょうか？

<浅井> そうですね。「お米の一握り運動」は、百合学院全体で集めたお米を大阪西成区にある釜ヶ崎に届ける活動です。釜ヶ崎は、日雇い労働者の方々が多く暮らす街です。そこでカトリックの団体が行っている炊き出しのお手伝いに冬休みなどを利用して行って

います。正直、はじめは「暗い」とか「怖い」というイメージがありました。しかし、実際に行ってみると、ボランティアの私たちに「今日もありがとう」とか「今日もよろしくね」とか、温かい言葉をかけてくださったり、寒い日でしたがとても心が温まりました。この活動を通して、実際にその場に行ってみなければわからないことが本当にたくさんあるのだということを知りました。そしてインターアクト部員が一番楽しみにしている活動が百合学院で毎年行っている「イザ・カエルキャラバン」です。他のクラブにも協力をお願いして、百合学院の生徒、先生方総勢 200 名がスタッフをして、運営をするインターアクト部最大のイベントです。これは 1995 年に発生した阪神淡路大震災を知らない私たちのような子供たちにも防災について知ってもらおうということで始まった体験イベントです。様々な企業とタイアップした防災ワークショップを百合学院の生徒たちだけで運営します。防災ワークショップを体験した子供たちは、このイベントのみで使用できるポイントがもらえます。集めたポイントで、百合学院の幼稚園から高校生までみんなに協力してもらって集めた、使わなくなったおもちゃと交換することができる、楽しみながら防災の知識が身に着くイベントです。毎年、1000 人以上の子供たちが参加してくれます。私はこのイベントに中 1 の時から参加していますが、ここで防災の知識はもちろんのこと、人と関わる楽しさを学びました。みなさんもぜひ一度参加してみてください。

<小野> 今年度の開催日を教えてください。

<浅井> 今年度は、2018 年 3 月 25 日日曜日、1 時～ 4 時に開催します。

使わなくなったおもちゃも集めていますので、ぜひ皆様、ご協力をお願いします。

<大谷> 浅井さん、ありがとうございました。次に百合学院高校の特進コースが毎年取り組んでいる「企業探究プログラム」について、特進コース 3 年生 上田さんに紹介してもらいます。上田さん、よろしくをお願いします。

<上田> みなさんこんにちは、百合学院高等学校特進コース 3 年の上田です。よろしくをお願いします。

<越野> まず、百合学院高校には、国公立大学・難関私立大学を目指す選抜特進コースと、幅広い進路選択が可能な特進コースの 2 コースがありますが、特進コースではどんなことを学ぶのですか？

<上田> 特進コースのユニークな授業として「キャリア」という授業があります。この授業はその名の通り、自分の将来を考えるための授業です。高校生になると将来どこの大学・どの学部に行こうかと目先の大学進学のことを考えてしまいがちですが、この授業では将来どんな仕事を選んで、どんな生き方をしたらいいか、自分はどんな力があるのかを様々な体験を通して考えることができる授業です。

<小野> 具体的には、どのようなことをするのですか？

<上田> 1 年生では、適性診断を受けて、自分に向いている学問や仕事について知り、その学問や仕事について深く探求します。また、百合学院を卒業して仕事をしておられる先輩からお話を聞いたり、実際に企業にインターンシップに行ったりもします。そのときにお世話になる職場の仕事の内容を調べたり、社会人に必要なマナー研修を受けたり、お

礼状の書き方を学んだりインターンシップを通じて、「働く」ということを実際に体感することもできます。2年生では、学校を紹介する動画を作ったり、「企業探求プログラム」に取り組んだり、実践的な活動をします。

<大谷> 「企業探求プログラム」ってなんですか？

<上田> これは、実際にある企業から私たちにミッションが与えられ、そのミッションに答えるというプログラムです。わかりやすくいうと企業の商品開発を行い、商品のプレゼンテーションを行うという取り組みです。このプログラムは全国で150校、2万人の高校生が参加しています。その中でも優秀作品に選ばれたチームは全国大会に出場することができます。

<越野> 上田さんは全国大会に出場されたそうですが、どのようなミッションに取り組んだんですか？

<上田> 私は、大手住宅メーカーからのミッションに取り組みました。私たちに与えられたミッションは、「超高齢社会に夢のある未来をつくり出す、型破りな土地活用サービスを提案せよ」というかなり抽象的なものでした。

<小野> 難しいお題ですね。上田さんのチームは、全国の手住宅メーカーからのミッションに取り組んだチームの中の頂点である最優秀賞の「企業賞」を獲得されたそうですが、一体どんな提案を行ったのですか？

<上田> 私たちは、お墓の土地を活用する提案をしました。お墓はデジタル化して、スマートフォンで手軽にお墓参りができるようにします。そして、その土地を活用して、いろいろな世代が同居するシェアハウスを作り、命をつないでいくという提案をしました。

<大谷> お墓をつぶして家を作るとは、何とも斬新すぎますよね。この提案に対して、先生たちに反対されなかったんですか？

<上田> 大手住宅メーカーからのミッションの中に、型破りな土地活用サービスを提案せよとあったので、型を破った土地活用はこれしかないと思いました。ですから、先生方からの反対はたくさんありましたが、何とか認めてもらおうと、必死に考えました。説得するための材料として、データも集めました。その中に、現在繁華街である東京の品川や板橋、大阪の千日前、京都の三条河原町も昔は墓地だったことが分かり、お墓の土地は発展しやすいといういわれがあることもわかりました。裏付けをしていくうちに、先生方も納得して応援してくださいました。

<越野> そもそもお墓をつぶして家を作るというアイデアはどこから出てきたんですか？

<上田> きっかけは些細なことで、私たちの班のリーダーが美容院に行った時に、美容師さんと「最近お墓参りに行けてないですね・・・」という会話になったそうで、その時に「あっ！」とひらめいたそうです。

<小野> 最後に、半年以上取り組んだ「企業探求プログラム」を終えて、学んだことがあれば教えてください。

<上田> 本当にたくさんのことを学びました。もちろん大変なことの方が多かったですが、仲間と一緒に乗り越えたことで、とても大きな達成感がありました。そして何よりこうやって人前で話すことが以前より得意になったことが1番大きく、自分に自信がついた

ので、貴重な経験をさせてもらって本当によかったと思います。

<大谷> 上田さん、ありがとうございました。上田さんたちの全国大会での発表の様子は、百合学院の公式アプリからも見ることができますので、興味がある方はぜひ見てみてください。

<越野> 短い時間ではありましたが、皆さんに百合学院の雰囲気や取り組みなど伝わりましたでしょうか？最後までお付き合いいただきありがとうございました。

<全員> ありがとうございました。

<市長> いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上